タイトル：2021 年度 教育セミナー（第 17 回）
日時：2021 年 9 月 16 日（木）～19 日（日）
オンライン開催

「初期アンダルスにおける歴史叙述とイブン・クーティーヤの『アンダルス征服史』―史料としての特徴に着目して」
森山 隆弘（九州大学大学院人文科学府）

私の所属する研究室では、修士 1 年の学生が中東☆イスラーム教育セミナーに参加することが毎年の恒例となっています。先輩方から話には聞いていましたが、実際に参加してみると想像以上に実りが多く、大変満足しております。以下、私の感想と、僭越ながら評価を述べさせていただきます。

まず本セミナーは、AA 研や外部の先生方、そして受講者による発表をじっくりと聴くことのできる機会になりました。特に口頭発表では比較的長めの時間が設けられているので、前提となるお話から伺うことが出来、私が明るくない話題にも入り込むことが出来ました。扱う時代や地域は様々なうえ、歴史学以外のディシプリンもありました。知見を広げる絶好の機会となったのはもちろんですが、それ以前に私自身の見識の狭さを反省し、中東／イスラーム研究の幅広さと奥深さを実感しました。特に地域研究の視座や法学の方法論などは、私が取り組んでいるアンダルス史にも大いに援用できるのではないかと思います。またレジュメの作り方や話し方など、基礎的な点でも今後の参考にさせていただきたいものが多くありました。

私自身も発表する時間をいただき、課題を改善する良い機会となりました。先生方や受講生の皆さんの様々な視点からのコメントをいただき、自らの学びを多角的に見つめ直すと同時に、発表においてより丁寧に説明すべき点は何なのか、取り組むべき論点が何なのかを浮き彫りにすることが出来たと思います。時機としても、9 月中旬に行われる本セミナーに向けて準備をすることで良い目的意識を持って夏休みを過ごすことができましたし、今後の学会報告や論文執筆へと続く道程の重要なステップになったと実感しています。

こうしてできた参加者の皆さんとのつながりは、今後の学生生活において心強い存在になると感じています。初日には全体での懇親会が開催され、2、4 日目には受講生の歓談の場を設けていただきました。勉強に関する真面目な話はもちろん、生活での悩みや体験談についても話すことができ、心理的な距離を縮めることが出来ました。単独作業の多い院生生活とコロナ禍において、良いリフレッシュの機会になりました。

最後に、少しだけ改善点を挙げさせていただきます。全体としてセミナーに多変満足しておりますし、スタッフの皆さんには、厳しい状況の中で最大限の配慮をしていただいたと思います。その上で、休憩時間などに先生方と気軽に話せる場が欲しかったと感じています。質問するに足らないようなちょっとした疑問を補完できれば、より理解を深めることが出

来ることも多いのではないかと思いました。

お忙しい中、セミナーの準備に尽力していただいた先生方、私たち受講生と密に連絡を取っていただいた千葉様をはじめとする AA 研のスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。今後ともお顔を合わせる機会があれば、何卒よろしくお願いいたします。